



E. 嚢腫 cysts

1. 類表皮嚢腫 epidermoid cyst ★

類義語：表皮嚢腫 (epidermal cyst)，粉瘤 (atheroma, MEMO 参照)，漏斗部嚢腫 (infundibular cyst)

症状

頭頸部，体幹上部，腰殿部に好発する，ドーム状に隆起した直径1～2 cm大(ときに10 cm以上)の皮内ないし皮下腫瘍(図21.25)。被覆表皮とは密着感があるが，腫瘤側面および下床は周囲組織に対して可動性を有する。多くは有毛部に生じ，表面は正常皮膚色～淡青色で弾性硬。中心に黒点状の開口部^{じゅくじょう}を有する。切開後，圧迫すると，腐臭を伴う白色粥状物質を排出する。通常，自覚症状はないが，二次感染をきたしたり嚢腫壁が破れたりすると発赤や腫脹，圧痛をきたす(炎症性類表皮嚢腫)。

病因

表皮ないしは毛包漏斗部由来の上皮成分が真皮内に陥入し，それが増殖して内部に角質塊を入れた嚢腫を形成する。手掌足底など一部では，外傷による表皮成分の埋入やHPV-57，60感染などが関与すると考えられている(表23.1参照)。

病理所見

嚢腫は正常表皮とほぼ同じ構造(基底層，有棘層，顆粒層を有する)からなる嚢腫壁を有し(図21.26)，角層に相当する部分に層状の角質塊を認める(粥状物質)。嚢腫壁が破れて粥状物質が真皮内に放出されると，多数の多核巨細胞を伴う異物肉芽腫が形成される。

治療

嚢腫壁を含めて外科的に摘出する。

2. 稗粒腫 milium ひりゅうしゅ(はいりゅうしゅ)

症状

直径1～2mm，表皮直下に出現する白～黄白色の硬い小丘疹(図21.27)。切開により白色の角質塊を排出する。原発性ものは眼瞼部に高頻度に見られ，ついで頬部や陰茎，陰唇に好発し，ときに局面を形成する。病理所見は類表皮嚢腫とほぼ同様である。

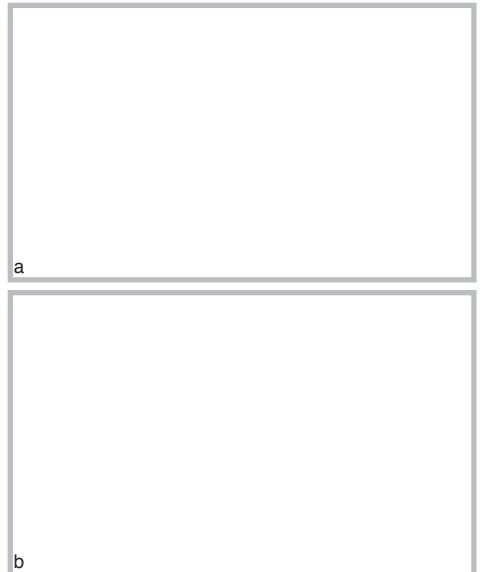


図21.25 類表皮嚢腫 (epidermoid cyst)
a：中心に黒点状の開口部を有する。b：炎症性類表皮嚢腫周囲に発赤，腫脹を伴っている。

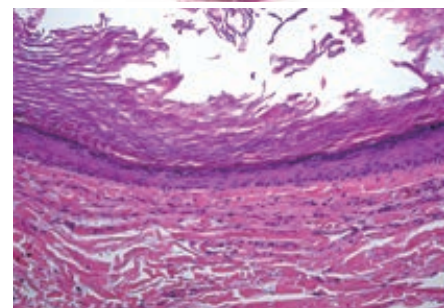
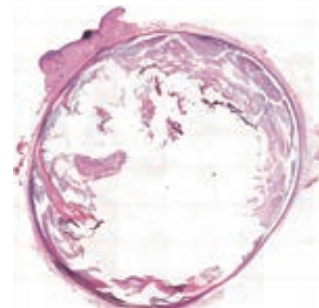


図21.26 類表皮嚢腫の病理組織像

粉瘤 (atheroma)

MEMO